

# 観光料飲部会長報告

平成 30 年 6 月 26 日

6 月 4 日、秋田県観光文化スポーツ部と正副部会長との意見交換会を 27 名の出席により秋田キャッスルホテルにて開催いたしました。

県からは、佐々木司観光文化スポーツ部長をはじめ各課長が出席し、テーマごとに意見交換を行ったほか、クルーズ船の受け入れ等について港湾空港課長から情報提供をいただきました。



## 【クルーズ船、国際チャーター便等のインバウンド対策について】

大門副部会長から、「大型クルーズ乗船客に対する秋田の食のPRを強化すべき」との問題が提起され、船内食でハタハタや比内地鶏、県産の米や酒が提供された事例が菅原港湾空港課長から示され、「今後もうまいもの販売課と連携して、秋田の食の利用拡大に努めていく」と述べられた。

また、増子副部会長から、「定期便化が期待される台湾チャーター便について官民連携できる部分はないか」との提案があった。これに対し、成田観光振興課長は、「秋田県単体では厳しいが、インバウンド宿泊者数東北No.1の青森県や、世界遺産平泉・一ノ関DMOの活動が顕著である岩手県等『北東北』で広域連携し、段階を踏みながら定期便化に向かっていきたい」との考えが示された。

## 【仙台・函館等主要都市からの誘客（シャワー効果）について】

竹島副部会長から、「今後交流人口を拡大していくためには近隣の大都市である仙台・函館からのシャワー効果が必要、今後の展望は」と問題提起した。秋田県は冬季観光需要が落ち込む傾向にあることから、成田観光振興課長は、先進事例として北海道ニセコなどを参考にあげて、「阿仁・森吉を三大樹氷の一箇所としてPRし、需要喚起に努めていきたい」との考えが示された。

## 【県民会館閉鎖に伴う対応について】

鈴木清副部会長から、「県民会館閉鎖から新文化施設が完成するまでの空白期間についてどのように賑わいを維持していくのか」との問題提起があった。兔澤文化振興課長は、「助成事業や情報提供の強化は勿論のこと、秋田市とも情報共有を図りながら進めていきたい。さらに、新文化施設完成後の大型コンベンション受入は、既に仮予約も受け付けているので積極的に活用して欲しい」と述べた。

## 【秋田市観光クチコミ大使PR活動へのインセンティブについて】

松村部会長が、「5/6 秋田魁新報に、『観光大使』のインセンティブについて触れた内館牧子さんのコラムが掲載された。県としてどのように受け止めているか」と問題提起した。石黒観光戦略課長は、「県管轄のあきた美彩館、秋田ふるさと館等での物販割引、県施設の入館割引が対応出来そうであり、クチコミ大使に活用してもらいたい。また、各市町村にも打診しており、積極的な活用で観光情報の発信と物産品の販売促進に繋げていただきたい」との回答があった。

その後、佐藤副会頭、佐々木観光文化スポーツ部長より総括いただき終了いたしました。

以上が観光料飲部会からの報告です。